

「佐仁小学校の島唄・島口・佐仁八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立佐仁小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計9人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

ア 練習の日時

令和5年4月～令和6年3月（朝の活動の時間，総合的な学習の時間）

イ 練習の場所

体育館

(2) 発表の日時・場所

ア 敬老会（9月17日（日）佐仁保健福祉館）

イ 学習発表会（10月11日（土）佐仁小学校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

島唄，島口，佐仁八月踊り

(2) 由来

ア 島唄

「シマ」とは集落のことであり，シマウタとは集落の歌という意味である。よって，ここでは佐仁の歌という意味である。

イ 島口

古来より集落に伝承されてきた独自の語り方である。佐仁の方言は，日本で一番母音が多いとも言われている。

ウ 佐仁八月踊り

県の無形文化財に登録されている。起源は不明であるが，ノロ神の祭式の踊りとして端を発したらしい。そこに村人たちも加わり旧暦8月の丙（ひのえ）を「アラセツ」，壬（みずのえ）を「シバサシ」として，家々を踊り回りながら，火災予防祈願をしたことが由来となっている。その後，五穀豊穰祈願の意味も加わり，グループ形成の踊りに形態を変えながら，現在に至っている。

(3) 構成等

佐仁八月踊りについては，男性が打ち出す歌に女性が歌い返ししながら最初はゆっくりと踊るが，途中からチヂンの刻むリズムが速くなり，踊りも激しくなる。2曲ほど踊ると，最後は「六調踊り」で締めくくる。なお，チヂンを打つのは女性と決められているのが佐仁の特徴である。

5 保存会や地域との連携の具体

月に1回の島唄教室，2ヶ月に1回の島口教室を教育課程に位置付けている。各教室には地域の方を2～3名講師としてお招きしている。また，運動会や学習発表会前には，1～2単位時間程度の練習時間を確保し，佐仁八月踊りも含めて慣れ親しませている。佐仁八月踊りについては，佐仁校区で毎月第4土曜日に佐仁保健福祉館において全体練習が行われ，多数の児童が参加している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

今年の島口については，佐仁校区各所の地名について地域の方に説明していただいた。子供たちになじみのある場所であるニャーゴ，ナーズヌ，イヤポデ山等を日常的に使う場面も見られた。子供たちの身近なところから気軽に話せるシマグチに取り組んでいる。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【シマグチの様子】



【佐仁八月踊りの練習】



【学習発表会でのシマ唄披露】



【三味線の練習】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 4年ぶりのシバサシとアラセツでは，今まで練習してきたことを発揮できて，多くのみなさんと踊ることがとても楽しかった。

【地域住民】

- ・ 子供たちを見るだけでも元気が出てくるが，島唄や八月踊りに取り組んでいる姿を見ると，とてもうれしくなる。

【教職員】

- ・ 子供たちが楽しく意欲的に伝統文化に親しむことができ，これは地域の方の協力があってこそものだと思う。